令和７年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立岐阜盲学校　学校番号　１０１

自己評価

学校教育目標	・障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し、互いに助け合い、明朗で、たくましく生きる力を身につけ、社会に貢献できる児童生徒を育成する。

評価する領域・分野	教務情報部「教務」「情報」
現状及びアンケートの結果分析等	・昨年度より改善がみられ、学校と保護者との連携、情報の伝達について、保護者や評議員からは高い評価を得られている。一方で児童生徒自身が学校から保護者への説明が十分ではないと捉えている傾向にあることを回答数から窺える。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・昨年度に引き続き、生徒に向けての情報発信と説明を丁寧に行っていく。
重点目標を達成するための校内組織体制	・部教務を中心に、所属部所属科の学級担任と連携を取って対応する。
目標の達成に必要な具体的取組	・部教務及び学級担任との課題の共有。 ・児童生徒本人、保護者への情報発信及び説明。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童生徒の様子や学校評価アンケートについての昨年度との比較。
取組状況・実践内容等	・学部懇談会や授業参観、個人懇談、ＰＴＡ総会及び各種委員会の案内を配付する際に、生徒にもこれらを実施する目的や内容を伝え、学校と保護者との間で重要事項を中心に連携や情報共有の機会をもっていることについての情報発信や説明を行う。

評価の視点	評価
①　児童生徒が学校と保護者との連携の機会について把握ができたか。	A　[B]　C　D

成果・課題	総合評価
○学校と保護者との連携がなされていることが、児童生徒の普段の学校生活への安心感にもつながった。 ○児童生徒と保護者との間で、交流や細かな情報の共有といった部分が十分でないことも少なからずあることが分かった。今後も丁寧な情報の発信や説明を行っていく。	A　[B]　C　D

来年度に向けての改善方策案	・学校と保護者との連携がなされていることが、児童生徒の普段の学校生活への安心感にもつながるため、今後も児童生徒への情報発信や説明を丁寧に行っていく。

学校関係者評価　（令和７年６月３０日、同年１１月１日、令和８年１月２８日実施）

意見・要望・評価等

・授業は個別の指導体制が多く、丁寧な支援がされていることが伝わる反面、集団が確保されているかの不安もある。少人数で活動する中で様々な工夫をして集団を確保してほしい。

・児童生徒が減少している盲学校で、今年度のように交流の場を設ける意義は大きいと考える。今年度の取組は、年齢を問わずに参加でき良い印象を受けた。今後も、多数の方が参加しやすい交流の場を広げていく工夫をしていきたい。

・盲学校と地域の交流を大切にしたいと考えているが、地域の子供も少ない状況である。今後どのように交流ができるか検討していきたい。